

令和3年度 東大阪大学柏原高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

学園訓（萬物感謝・質実勤労・自他敬愛）の具現を図り、知力の充実とともに豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。

- 中学生やその保護者に行ってみたい・行かせてみたいと興味を持ってもらえる学校
- 教育活動全般を通じて、自尊感情（自己肯定感や有用感）が育てられる学校
- 自分らしさを発見・追求し、自分の進路を切り拓いていける学校
- とことん生徒と向き合い、面倒見の良い教職員集団が形成される学校
- 生徒にとっても、保護者にとっても「来てよかった」と思える学校

2 中期的目標

1. すべての生徒が夢中になって学べる授業づくり
 - (1)ICT教育の充実
 - (2)主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の追求
2. 生活指導の徹底と生徒会活動の充実
 - (1)問題行動の未然防止
 - (2)迅速な対応と粘り強い指導
 - (3)退学・転学の防止、減少
 - (4)生徒会活動の充実
3. 生徒募集活動の推進と効果的な広報活動
 - (1)改革プロジェクトチームの立ち上げ
 - (2)新コースの立ち上げ
 - (3)キャリアアップコースの再編成
 - (4)調理・美術コースの広報
 - (5)自分らしさを追求できる選択授業・専門教科の充実
 - (6)アドバンストコース、国際クラスの進学実績向上
 - (7)ホームページのバージョンアップ
 - (8)入試広報活動の工夫
4. 生徒サポートの充実
 - (1)気になる生徒（不登校、虐待、問題行動、障がい等）への適切な指導、効果的な対応
 - (2)不登校や転退学の防止・減少
 - (3)学び直しの体制づくり
5. 国際クラスの充実
 - (1)コロナ禍におけるオンライン授業の充実
 - (2)有名大学進学に向けた学力保障
 - (3)日本人と留学生の相互交流を基盤とした多文化共生教育の推進
 - (4)国際交流センターとの連携強化
6. 進路指導の充実と進学実績の向上
 - (1)多様な進路（就職・専門学校・大学等）への対応
 - (2)就職率100%の継続、進路未定者「0」に向けた進路指導
 - (3)東大阪大学（短期大学部含む）への入学者の確保→東大阪大学との連携強化
 - (4)アドバンストコースの指導体制・内容の充実を図り進学実績の向上

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○学校教育自己診断調査結果（生徒）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度肯定的評価が上昇した7つの質問で今年度も肯定的評価が高い水準であった。また、「担任の先生以外にも、相談室等で気軽に相談できる先生がいると思いますか。」(69.9%→78.8%→82.4%)、「いじめや差別、偏見をなくすための教育がなされていると思いますか。」(75.8%→81.0%→84.4%)、においては、2年連続の肯定的評価の上昇となった。今年度もコロナ禍における活動の制限により、学校が家以外での居場所として、必要とされているのではないだろうか。引き続き生徒が安心して通える学校づくりを取り組んでいきたい。 ・一方で、「選択科目について、あなたは興味が深まったと思いますか。」(75.7%→69.6%)、「食堂は充実していて利用しやすいと思いますか」(72.9%→67.4%)の肯定的評価が下降している。来年度の選択科目における講座の内容の選定及び、生徒が興味を深められるように精査していくことが求められている。また、食堂に関しても来年度から新たな業者に変更するので、生徒が満足できるように食堂業者と連携をとっていきたい。 <p>○学校教育自己診断調査結果（保護者）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員は、きめ細かな指導に努め、面倒見が良いと思われませんか。」(58.2%→86.2%)、「教員は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思いますか。」(61.7%→82.0%)などの質問で大幅な肯定的評価の上昇があった。「面倒見が良い柏原」であることを保護者からも評価されている。 ・「学校の生徒指導の方針は、保護者に示されていますか。」(66.4%→74.2%)「学校の生徒指導の方針に共感できますか」(62.6%→77.9%)と保護者との密なコミュニケーションがとれていることから、肯定的評価が上昇した。引き続き保護者と綿密なコミュニケーションをとり、生徒・保護者に学校のルールを理解していただけるように促したい。 ・今年度もコロナ禍の影響で学校行事の中止及び保護者の学校行事への参加中止であったため、保護者から行事の実施要望や参加希望の声をいただいた。まだまだ保護者への情報共有ができていないので、引き続き柏高メールやホームページ・SNSなどで、学校の様子や情報を保護者に分かるよう開かれた学校づくりを進めていかなければならない。 <p>○学校教育自己診断調査結果（教員）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたは学校運営方針に基づき、教育活動を展開していますか。」(84.6%→100.0%)、「あなたは生徒の理解度を確認しようとしていますか」(100.0%→100.0%)など全体的に肯定率が上昇した。コロナ禍による生活に教員も順応しており、今まで以上に生徒中心の学校づくりができていないのではないだろうか。引き続きさらなる肯定的評価の上昇をめざし、教員同士で十分にコミュニケーションをとりながら、生徒をサポートしていきたい。 	<p>評価委員：学識経験者 同窓会代表 保護者代表</p> <p>○学校教育自己診断調査結果（生徒）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70%以上の肯定割合であり、一部90%以上の肯定割合もあり、先生方皆さま方のご努力の賜物と思います。一部肯定割合が低い項目もあるようですのでご精査頂き、改善に向けて更なるご努力を期待する次第です。昨年よりも低い項目が少なくなり、喜ばしい限りです。 ・「学習への取り組み」学習評価には関心が高く、9割近くが前向きである。 ・「進路と学校生活」学年があがるごとに目標が明確になっている。 ・「相談室・保健室の利用」保健室・相談室は気軽に利用しているようだ。 ・「部活動」部活動の実績には十分な認識があるが、コロナ禍による部活動の制限等によりやや消極的になっている。 ・「生活指導・規律」今年度も高い評価が得られている。学校の伝統教育として、生徒指導や規律への意識の高さが保護者の安心につながる。生徒の自己診断の数字は、正直なデータとして受け止められる。 ・「ICT教育」1年生と2,3年生で意識の違いがでてきている。ICT教育の変革期であり、ICT機材を上手く学校生活に導入することが求められている。 ・「選択科目」学年があがるごとに学びを深めることができていない。選択科目の実施方法や内容に関して、教員と生徒の相違があるのではないか。 <p>○学校教育自己診断調査結果（保護者）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に保護者から高い評価を得ている。引き続き多感な時期の生徒と保護者とのコミュニケーションが良好なものになりますようにご尽力いただきたい。肯定率が低い設問が今回は見当たらなかった。コロナ禍による設問の変化とともに保護者の声を真摯に受け止め改善していただきたい。 ・肯定率が高い(85%以上) 学校生活の充実 面倒見の良さ 施設・教育環境 規則遵守 風紀・生活指導 ・肯定率が低い(70%以下) いじめや差別をなくす環境づくり iPadの家庭での利用状況 <p>○学校教育自己診断調査結果（教員）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の仕事に取り組む姿勢や授業に対する意識は昨年よりも高くなっており、頭が下がる思いです。しかし、学校の特色やクラス編成、教育課程の編成、食堂などに不安があるように感じます。引き続き職員の方々への適切な評価を行い、生徒への対応を存分にできるよう、先生方で話し合い、議論を重ねて魅力ある学校づくりをお計らい頂ければ幸いです。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 全ての生徒が夢中になって学べる学級づくり	(1)ICT教育の充実	(1) ア) 1人1台のタブレット端末を導入。個別最適な学びと協働的な学びをめざす。 イ) 学習アプリを導入し、全ての教科で毎時間タブレットを活用する。 ウ) すべての教科でタブレットを活用した公開授業や研究授業を行い、教職員の資質向上に努める。	(1) ア) 自己診断における情報機器の活用に関する項目 イ) 自己診断における教科指導や授業に係る項目 ウ) 実施回数、研修内容	(1) ア) 1学年全員に iPad を導入した。順次全学年に導入していく。生徒の自己診断で「授業で iPad が効果的に使用されていると思いますか」の項目では、肯定的回答が85%あった。 イ) 学習アプリ<Monoxer>や<スタディサプリ>を導入して、毎時間授業で活用することをめざした。2・3年生は<Google Workspace>を活用した。 ウ) 教員対象の ICT 研修を年間で16回、公開授業は12回実施することができた。
	(2)アクティブラーニングの追求	(2) ア) ICT やペア学習・グループ学習の活用 イ) 自分の考えをまとめ、発表・表現する力の育成 ウ) 自尊感情を育てる授業	(2) ア) 自己診断における教科指導や授業に係る項目 イ) 自己診断における教科指導や授業に係る項目 ウ) 自己診断の評価結果	(2) iPad を活用し、友だちと一緒に調べたり、調べたことをグループで発表させる等の授業ができた。学習アプリを活用し、達成感が持てるようになってきている。 教員の自己診断で「生徒の実態を踏まえ、少人数指導やグループ学習、参加体験型や問題解決的な学習を授業に取り入れる等、指導方法や学習形態の工夫・改善に努めていますか」の項目では、肯定的回答が昨年度より25ポイント上昇し72%であった。
2 生活指導の徹底と生徒会活動の充実	(1)問題行動の未然防止	(1) ア) 挨拶、身だしなみ、頭髪、遅刻、欠席等の「凡事徹底」 イ) 「報告・連絡・相談・確認」の徹底 ウ) 情報モラルや SNS 関連の啓発活動	(1) ア) 自己診断の評価結果 イ) 自己診断の評価結果 ウ) 実施回数、研修内容	(1) ア) 生徒の自己診断の該当項目では、96%の生徒が肯定的な回答をしている。教員の「遅刻・挨拶・服装指導等、基本的生活習慣を確立させる指導に努めていますか」の項目では肯定的回答が100%であった。来校者からは「しっかり挨拶ができていますね」とほめていただくこともしばしばある。 イ) 生徒指導室、相談室等を利用して、生徒への指導の徹底を行うと共に、特に学年間の情報共有を大切にした。 ウ) SNS 関連の人権研修を、学年全体で3回実施した。また学年集会や行事等機会あるたびに啓発活動を行った。
	(2)迅速な対応と粘り強い指導	(2) ア) 問題事象への迅速な対応と外部関係機関との連携 イ) 保護者への報告・連絡等家庭と連携した指導 ウ) 生徒指導に基づいた厳しくも温かみのある指導	(2) ア) 自己診断の評価結果 イ) 自己診断の評価結果 ウ) 退学者数の推移	(2) ア) 子ども家庭センターと連携し、適切な指導ができた。 イ) 様々な家庭環境の生徒が在籍しているので、家庭との連携を密にし、生徒に寄り添った指導ができた。 ウ) 教員の自己診断では、該当項目で97%が肯定的回答であった。また今年度の退学者は、昨年度より減らすことができた。
	(3)生徒会活動の充実	(3) ア) 生徒会活動の活性化により、生徒の主体的な活動を育成する。 イ) 自己有用感を高め、自治能力を育成する。 ウ) 時代や生徒の実情に合わないもの、合理性を欠く校則の見直し	(3) 自己診断の評価結果	(3) コロナ禍で行事がほとんど中止になる中、食堂や校則についてのアンケートを取るなど、工夫して活動することができた。これを基に校則を見直し、一部改正することができた。

<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">生徒募集活動の推進と効果的な広報活動</p>	<p>(1)改革プロジェクトチームの立ち上げ</p>	<p>(1) ア) 週1回ペースで改革プロジェクト会議を開催し、短期集中で入学生徒数増加に向けた具体的な提案を行う。</p> <p>イ) 本校の特色の一つであるスポーツコースを発展させ、時代のニーズに合った新コースを立ち上げる。</p>	<p>(1) ア) 実施回数、具体的提案</p> <p>イ) 具体的な準備</p>	<p>(1) 3か月で9回の改革プロジェクト会議を実施し、具体的な提案を多くすることができた。これを基に、令和5年度に最近注目されているスポーツを授業に取り入れた新コース（キャリアスポーツ）を立ち上げることが決定した。</p>
	<p>(2)キャリアアップコースの再編成</p>	<p>(2) ア) キャリアアップの特色を明確にして広報する。</p> <p>イ) 地元企業や地場産業と連携したインターンシップ制度を取り入れるなど、就職系列を強化し、多様なニーズに応える。</p>	<p>(2) 実施内容</p>	<p>(2) 1年時から「キャリア教育」に力を入れ、「進路研究」や「選択授業」の内容を充実させた。生徒の自己診断でも「本校は他校にない特色があると思いますか」は73%が肯定的回答であった。</p>
	<p>(3)調理・美術コースの広報</p>	<p>(3) ア) 地元中学生を中心に定期的な体験授業を行う等、本校に来てもらったり知ってもらおう機会を増やす。</p> <p>イ) 東大阪短大や連携専門学校、大阪芸術大学等への進学実績をしっかりと広報する。</p> <p>ウ) 調理コースでは、食堂と連携した弁当販売や地元飲食店への職業体験など、新たな企画を実施する。</p> <p>エ) 美術コースでは、本校主催のコンテストや夏休み子ども体験教室を実施するなど本校を知ってもらう機会を増やす。また作品の展示場などを設け、見てもらえる機会も増やしていく。</p>	<p>(3) 体験授業実施回数 新たな企画の実施</p>	<p>(3) 両コースともに、中学生を対象に3回の体験授業を実施することができた。次年度には、さらに増やす予定。</p> <p>東大阪短大や連携専門学校、大阪芸術大学等へ目標以上に進学実績を残すことができた。</p>
	<p>(4)自分らしさを追求できる選択授業・専門教科の充実</p>	<p>(4) ア) 学習指導要領の改訂に伴い、専門コースはより特化したカリキュラムに変更する。</p> <p>イ) キャリアアップやキャリアアシストの選択授業の充実を図る。</p>	<p>(4) 実施内容 キャリアアップ・アシストコースの自己診評価結果</p>	<p>(4) 「自分らしさ」が発揮できるように選択科目を充実させ、専門の講師を招いて専門性の高い授業を実施することができた。生徒の自己診断では「選択教科についてあなたは興味が高まりましたか」とは、70%が肯定的回答であったが、昨年度より少し下降しているため精査が必要。</p>
	<p>(5)ホームページのバージョンアップ</p>	<p>(5) ア) ホームページをバージョンアップして、動画等を多く取り入れ、本校の特色、楽しさが伝わるようにリニューアルする。</p> <p>イ) 広報の主体を紙ベースからホームページ等のSNS中心に切り替え、日々学校生活の楽しさやクラブの様子・戦績等を更新していく。また各コースごとの進路情報も詳しくタイムリーに広報していく。</p>	<p>(5) 実施内容</p>	<p>(5) ホームページをバージョンアップさせるための準備を進めることができた。クラブや行事の様子を、フェイスブックやインスタグラムで多く発信することができた。</p> <p>教員の自己診断で「情報機器や情報ネットワークを効果的に活用できていると思いますか」の肯定的評価は82%で、昨年より20ポイント以上上昇している。</p>